

熊本高等専門学校 令和4年度計画の点検結果

(熊本高等専門学校自己点検評価委員会)

番号	熊本高専令和4年度計画	令和4年度計画実績 ※年度末の状況	達成度
1	(1)入学者の確保 ①-1 ・募集パンフレットや広報誌、公式Webサイトなど確認して、本校の様子と本校6学科の特色が中学生及びその保護者、中学校教員に伝わるように工夫する。 ・公式Webサイトに、学校の紹介や各種イベントの案内、活躍した学生の紹介等、公式Webサイトの情報の更新と充実を図る。2020年に公開したWebオープンキャンパスを積極的に活用し、本校の魅力を発信する。 ・本校で中学生及びその保護者等を対象に実施しているオープンキャンパスや入試説明会、塾講師や中学校教諭を対象にした学校説明会では、説明会の対象者を意識した効果的な説明を行う。 ・中学校が主催する上級学校説明会の参加依頼については原則としてすべて参加することとし、中学生、保護者、中学校教諭に対して、熊本高専の魅力を伝えられるよう、説明内容の精査と資料の改善を行う。 ・中学生及びその保護者等を対象に実施されている合同説明会や中学校訪問については、費用対効果を鑑みて、効果的・効率的に志願者増に向けた取り組みができるよう実施内容を点検し、改善の検討を行う。	(1)入学者の確保 ①-1 ・募集パンフレット「テクノモーション」を発行した。中学生や保護者に高専の特色が伝わるように記載内容等の精査を行った。また、公式Webサイトに掲載の情報を更新した。 ・各種イベントについては、公式Webサイトにて周知を行った。本年度は、各種イベントの参加申込にWEB出願システムを利用したことで、中学生が本校Webサイトを訪問する機会の増加につながった。Webオープンキャンパスについては、中学生の情報収集の手段となるよう上級学校説明会等で周知した。2020年度に開設した常設Webオープンキャンパスには、1,048のアクセスがあった。昨年度よりも減少しているが、オープンキャンパスや入試説明会がコロナ禍前の形式に近い形で対面で実施できたことが要因の一つと考えられる。 ・各種説明会における資料も随時見直ししており、高専の魅力が伝わるよう、受験生やその保護者に情報が届くように改善を続けている。また、令和5年度よりWEB出願が導入されることを受け、出願手続きに関する情報提供を追加する際には、対象者を意識した説明を行った。 ・中学校が主催する上級学校説明会については、参加依頼があった学校についてはすべて参加した。5月から10月にかけて、熊本キャンパスでは、17校の中学校からの依頼による説明会、2件の進路指導者向けの合同説明会、八代キャンパスでは、25校の中学校からの依頼による説明会説明会に参加した。 ・合同説明会については、10月3日に開催の菊南ライオンズクラブが主催する熊本県高校オンラインの進学説明会に参加した。 ・その他、KOSEN FES2022、KOSEN FAIR 2022、福岡県内3高専合同説明会において、募集要項、テクノモーション、学校紹介PV等の提供を行った。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各種イベントの対象者を受験生のみとした。中学3年生ではなく、受験生とすることで中学校の既卒者等を含めることができた。	◎
2	①-2 中学生及びその保護者等を対象に実施しているオープンキャンパスや入試説明会、塾講師や中学校教諭を対象にした学校説明会を開催し、きめ細かなPR活動を継続する。 中学校主催の上級学校説明会に参加し、中学生及びその保護者に高専の魅力を伝える。オープンキャンパスでは、新型コロナウイルス感染症の状況を注視し、感染防止対策を行うとともに、学生会と連携した学生による個別相談や、保護者後援会の協力を得て保護者の相談ブースを可能な範囲で実施し、中学生及びその保護者への働き掛けを強化して、熊本高専の特性や魅力を発信する。 また、寮務委員会や寮生会と連携した寮見学など、寮に関する情報提供も行っていく。 昨年度実施した、中学校PTA単位での学校見学会については今年度も継続して実施する。オンラン相談会については、オープンキャンパスの実施状況等を考慮しながら、実施について検討を行う。	①-2 8月6日(土)熊本キャンパス、7日(日)に八代キャンパスで実施した。コロナ禍前に比べると、1回の参加者に上限を設けるなど制限された状態ではあったが、熊本キャンパスでは寮見学の実施、八代キャンパスでは学生が参加、また両キャンパスにおいて後援会や学生会の協力による個別相談会の実施など、昨年度よりも充実した内容で実施できた。熊本キャンパスでは中学生309名、保護者266名、八代キャンパスでは、中学生227名、保護者199名の参加があった。 中学校教諭や塾講師を対象にした学校説明会を10月11日に開催し、熊本キャンパスでは26校、15塾、八代キャンパスでは11校、7塾の参加があった。 中学生対象入試説明会は、熊本キャンパスでは10月22日、23日の電波祭に合わせて、八代キャンパスでは10月29日、30日の高専祭に合わせて実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため事前申し込み制とし、熊本キャンパスでは中学生75名、保護者70名、八代キャンパスでは、中学生84名、保護者81名の参加があった。 中学生・保護者の相談に応えるため、「受験生のためのオンライン進学相談会2022」を10月2日に実施し、31組の参加があった。相談会には、本校学生も参加し、中学生と学生が直接対話する機会を提供できた。特に遠方から本校を希望する受験生に好評であった。 中学校PTA単位での学校見学会として、5月から10月にかけて熊本キャンパスでは5件(15人)、八代キャンパスでは6件(13人)の申し込みがあった。 熊本県魅力発信事業の一環として、県内高校を対象とした動画作成の依頼に八代キャンパスが応じた。この動画は、2023年度以降Youtubeにて配信される予定である。	◎
3	②-1 女子中学生の志願者増に向けた取り組みとして、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、オープンキャンパスや学校説明会等において、女子学生による相談コーナーや説明コーナーを設ける。 また、女子中学生の志願につながるよう、従来の募集パンフレットや各種説明会資料、Webサイトの他、他の方法についても、本校の優秀な女子学生の存在と能力をアピールするため、内容と情報発信の方法について検討し、実施する。	②-1 オープンキャンパスの個別相談会では、熊本大学のJST事業と連携し、女子生徒のための相談コーナーを設置した。 オンライン相談会において、女子生徒のための相談室を設け、両キャンパスの女子学生と女性教員が相談にあたった。 募集パンフレットやWebサイトなどにおいても女子学生と男子学生のバランスをとって起用した。	◎

番号	熊本高専令和4年度計画	令和4年度計画実績 ※年度末の状況	達成度
4	②-2 引き続き、本校ホームページ(英語版)の充実を図るとともに、リーフレットの配布や可能な範囲での海外協定校への訪問、オンライン等による交流を通じ、高専教育について特性や魅力を伝える。	②-2 本校ホームページ(英語版)の更新、およびWYSD等の関連イベントを通じて本校のリーフレットのonline掲載等を行い、海外協定校への情報発信を行った。海外協定校への訪問については、コロナ禍により実現できなかったが、連絡は密に行っている。前期にはオンラインでのプロジェクト受入れ(7名)、後期には対面での留学生の受入れ(15名)も実施し本校の魅力を発信した。	◎
5	③ 本校の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った入学者を確保するため、本校のアドミッションポリシーを募集パンフレット、学生募集要項、公式Webサイトなどで分かりやすく公開するとともに、オープンキャンパスや学校説明会などでも中学生及び保護者、中学校教諭に周知する。本校のアドミッションポリシーを反映した評価ができるよう、蓄積すべき入試等のデータ整理及び分析を実施する。 Web出願の導入に向けて、準備を行う。また、募集要項、オープンキャンパス、入試説明会等で中学生、保護者および中学校に周知を行う。	③ 本校のアドミッションポリシーは、本校公式Web、学生募集パンフレット、学生募集要項で公開するとともに、学校説明会等では必ず周知している。また、本校のアドミッションポリシーを反映した評価ができるよう、新入生アンケートの項目の見直しを行った。また、推薦選抜や編入学の面接における問題の見直しを進めている。 専門に強い興味を持つ中学生を確保するため、八代キャンパスの3学科においては、推薦選抜の合格人数を定員の50%に変更した。 Web出願の導入を行った。合わせて、学生募集要項への反映、各種イベントでのWeb出願システムの利用、出願システム利用の手引きの作成、中学校専用サイトの対応、中学校・塾対象学校説明会、受験生対象入試説明会にて、Web出願システムについての説明を行った。いくつかの課題が発見されたので、これについては次年度以降に対応を検討する。	◎
6	(2)教育課程の編成等 ①-1 教育組織の改編に合わせ学校運営組織として再編成した企画運営会議、企画調整会議を運用し、法人本部の国際交流センターや教育改革推進本部、情報戦略推進本部等との円滑な連携に取り組む。	(2)教育課程の編成等 ①-1 再編成した企画運営会議、企画調整会議を適切に運用し、法人本部の国際交流センターや教育改革推進本部等との連携を行い、一例として、タイ高専教職員研修(10月実施)では本部とともに20名程度に対して高専制度全般を理解してもらう機会となった。	◎
7	①-2 ・令和5年度よりスタートする九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムに向けた学内体制の整備、および、教員間の研究マッチングの推進を行う。 ・社会ニーズを踏まえた高度な人材育成に取り組むため、地元企業等との共同教育や共同研究活動を継続的に実施する。	①-2 ・学則の整備を完了し、学内の体制は整っている。今後も、連携教育プログラムを運用面で支えられるように、教員の研究マッチングを後押しする。また、夏季休業期間中に4年生を対象にした九州大学インターンシップが完了し、次年度の連携プログラムを希望する学生の希望調査を終えた。令和5年3月に開催された作業部会、ならびに、第6回連携教育プログラム協議会で確認を行った。 ・TKL(東京エレクトロン九州)との「人材育成プログラム」により、令和4年5月13日(金)にキックオフミーティングを行った。その後、毎週金曜日の午後、TKLに17名の学生(両キャンパスの専攻科1年および本科5年生)がオンラインにより、共同での研究活動を実施している。令和4年10月14日(金)にTKL-熊本高専人材育成プログラムの「第7回 学生成果発表会」、令和5年3月3日に「第8回学生成果発表会」を開催した。地元企業との共同教育は順調に進められている。	◎
8 (39)	②-1 ・海外渡航の状況を注視しつつ、状況が好転した場合はすぐにも海外インターンシップができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、企業とアカデミックの両面からのインターンシップの準備を進めていく。 ・海外協定校と協議しながら、オンライン国際ワークショップ及び学生交流を計画実施する。	②-1 ・コロナ禍以前のように海外インターンシップを定量的に実施するには至らなかったが、協定校とは緊密に連絡を取り合ってきた。また、個人や学科ベースでの海外インターンシップは徐々に実施され始めており、今夏も数名の学生が参加することができた。 ・オンライン交流については5月から10月の長期にわたりシンガポールの Temasek Polytechnic 他と協働し、World Youth Skills Day 関連イベントに多くの学生が参加しただけでなく運営に携わった。残念ながら実際の学生の移動はできなかったが、香港IVEとのIdeathonやタイKMITLの学生を含むe-Xchange など貴重な国際交流の機会を持つことができた。	◎
9 (40)	②-2 学生の国際コミュニケーション力や海外へ飛び出すマインド育成のため、海外協定校との協働ワークショップなどの運営に学生も参画させていく。また、海外渡航の状況を注視しつつ、状況が好転した場合は、すぐにも海外研修ができるよう、海外協定校と連絡を取り合い、準備を進めていく。	②-2 コロナ以前のような定量的な学生派遣はできていないが、12月には4名の学生を日タイ高校生サイエンスフェアに派遣できた。来年度の派遣に向けて引き続き協定校とは緊密な連絡を取り合っている。 なお、8で述べたようにオンラインではあるが海外協定校との協働ワークショップは実施することができ、複数の学生が参加した。後期は、短期留学生を対面で受け入れることができ、短期留学生を含む国際交流活動などを通じて学生の国際コミュニケーション力の向上を図ることができた。	◎
10	③-1 高専体育大会や各種コンテスト等で本校学生が活躍し、多くの学生が全国大会に出場できるよう、部活動や学内活動に対して環境の整備や予算的な配慮などの支援を行う。	③-1 新型コロナウイルスによる制約がある中、感染防止対策を履行した上で部活動の実施、大会への参加が可能となるようにガイドラインの見直しをおこなった。 また、学内での予算措置や後援会からの援助により、外部コーチや課外活動支援員の登用、各競技・管轄団体のチーム登録料の補助、連合会主催のコンテスト・コンペティション(ロボコン、プロコン、デザコン、英語プレコン)における活動経費の補助をおこなった。	◎

番号	熊本高専令和4年度計画	令和4年度計画実績 ※年度末の状況	達成度
11	③-2 学生に対して各種のボランティア活動を周知し、積極的な参加を呼びかけると共に、そうした活動を顕著に行った学生や学生団体に対しては表彰等を行う。	③-2 学生に対して、自治体等からの斡旋依頼のあったボランティア(10月15日開催 第35回やつしろ全国花火競技大会、11月20日開催 第27回熊本国際交流祭典)等について周知し、意欲のある学生がボランティアをおこなった。 また、本校主催、管轄の活動においても、5月21日に開催されたおもしろサイエンス・わくわく実験講座2022、6～7月・11月に開催された九州沖縄地区高専体育大会、10月30日に開催された九州沖縄地区大会ロボコン大会等の運営補助のボランティアを募り、多くの学生がボランティア業務に従事した。	◎
12 (41)	③-3 本校の留学経験者の報告会及び留学説明会を開催し、留学の魅力を学生に伝える。その他、留学促進講演会として、熊大講師及び卒業生による講演会を両キャンパスで実施予定である。留学に関する奨学金情報は、随時学生に提供していく。	③-3 留学経験者の報告会及び留学説明会を12月に実施し、卒業生による講演会や外部講師による講演も1月に予定通り実施した。 トビタテ！等の留学に関する奨学金情報はTeamsを通じて随時学生に提供し、トビタテ!留学JAPANには2名が申請中である。	◎
13	(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目担当教員の新規採用において、応募要件に博士(学位)を有する者を掲げること原則とすることを人事委員会にて確認する。	(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目担当教員の新規採用においては、応募要件に博士(学位)を有する者を掲げること原則とすることを人事委員会にて確認している。	◎
14	② クロスアポイントメント制度による教員採用の制度導入の可能性について検討し、引き続き、学内規則等の環境整備を推進する。	② クロスアポイントメント制度による教員採用の制度導入に向けて、引き続き、学内規則等の環境整備を推進した。	◎
15	③ 変動労働勤務制度において、柔軟な勤務時間を選択できる環境にあるかを点検し、必要なシフト整備を検討する。また、同居支援プログラム、女性研究者支援プログラム等を教職員へ周知し、働きやすい環境整備について検討し、整備計画を策定する。	③ 変動労働勤務制度のもと、柔軟な勤務時間を選択できる環境にあるかを点検し、必要なシフト整備を継続的に検討している。また、同居支援プログラム、女性研究者支援プログラム等について教職員へ周知し、働きやすい環境整備を構築している。	◎
16	④ 一昨年度、タイ高専への授業支援で沖縄高専の外国人教員の受持ち授業を熊本高専の教員で支援した実績を活かし、外国人教員を採用した学校への支援に対応する。	④ 令和2年度のタイ高専への授業支援に伴い、沖縄高専にて熊本高専の教員が支援した実績を今後も他高専への支援に繋げることを行う。	◎
17	⑤ 他高専との人事交流については、学校内の教員配置を考慮しながら継続的に実施する。また、技科大とのプロジェクト連携や内地研究員の派遣についても推進する。	⑤ 他高専との人事交流については、学校内の教員配置を考慮しながら継続的に実施し、また、技科大とのプロジェクト連携もおこなった。	◎
18	⑥ 全ての教員が参加できるファカルティ・ディベロップメント等の教員の能力向上を目的とした学内研修を実施する。また、教員の能力向上を目的とした外部研修会等に積極的に教員を派遣する。	⑥ 両キャンパスの全教員を対象とした両C合同教員研修会を8月30日に実施し、進級制度について意見交換を行った。また、全教員が参加できる研修会として、「ペップトーク研修会」、「Power Automate研修会」、「授業アンケートの振り返りとシラバス作成について」、「FD講演及び研修会(ワークショップ)」:「各教員が育成したい学生像について」を開催した。 外部のFD研修については、各教員の教育研究費を活用した研修参加を奨励すると共に、FD推進室予算から、「ペップティーチャー養成講座」、「主体的・対話的・深い学びの推進」に向けた教員向け研修会」への参加支援を行った。 学校の枠を超えたFD活動として、第5ブロックでのFD協働体制の実現に向けてキックオフ会議を実施し、第5ブロックFDマップ作成のためのFD活動一覧の調査が完了している。 上記内容の内、「ペップトーク研修会」は昨年度の研修会の際にいただいた要望に沿った実践的な内容に関する研修である。	◎
19	⑦ 「教育」、「研究」、「学生指導」及び「地域貢献」の各分野で顕著な功績が認められた教員を、教員会等で表彰する。	⑦ 「教育」、「研究」、「学生指導」及び「地域貢献」の各分野で顕著な功績が認められた教員を決定し、表彰に向け準備を進めている。	◎

番号	熊本高専令和4年度計画	令和4年度計画実績 ※年度末の状況	達成度
20	(4) 教育の質の向上及び改善 ① ・カリキュラム・ポリシーの改定を令和4年度中に実施、公開するとともに、現在のディプロマ・ポリシーとの対応を精査確認し、アドミッション・ポリシーと併せ今後の本校の将来構想に係る議論において、改定についての検討を行う。 ・前項に基づき、教学マネジメント体制の構築を検討する。またカリキュラムについてWebシラバスでの具体化を進めるとともに、アセスメントモデルを検討・試行する。 ・リベラルアーツ科目の高学年への展開などさらなる充実を図るとともに、COOP教育、PBL教育などアクティブラーニングに関する成果検証を実施する。令和元年度カリキュラムの実質化に向けた計画を実施する。 ・教育の質向上に向けて、引き続き、第5ブロック各高専と連携し、FDの実施および体制等に関する検討を行う。 ・学生の主体的な学びの促進等を図るため、国立高等専門学校間の教材の共有や授業科目の履修等を推進する。	(4) 教育の質の向上及び改善 ① ・ディプロマ・ポリシーを含む3ポリシーについて、令和元年度以降入学用カリキュラムをベースに6学科、2専攻分での各ポリシーの対応を確認し全体的な見直しを行なった。令和5年1月に本校Webサイトに公開した。 ・教学マネジメント体制の構築に向けて、熊本高等専門学校教学IR推進室規則を10月に制定した。また、アセスメント・ポリシーを令和5年2月に制定した。 ・リベラルアーツコア科目を中心にCOOP教育、PBL教育を実践した。また、令和元年度カリキュラム実質化に向けた検討も当初の予定通り進めた。 ・昨年度の九州沖縄地区教員研究集会で議論されていた第5ブロックでのFD協働体制に関して、その構築に向けた担当者会議に着手し、協働体制構築に向けた検討を行った。 ・国立高等専門学校間の提供科目について履修等を推進した。また「高専間単位互換科目の決定手順について」を作成した。	◎
21	② ・外部評価として位置付ける令和4年度運営諮問会議に対応する。 ・平成28年度に受審した機関別認証評価の指摘事項の改善を継続するとともに、令和5年度に受審予定の機関別認証評価に向けてアンケートを実施し、その結果を分析して必要な改善を行う。 ・機関別認証評価準備ワーキンググループと連携し、令和5年度受審予定の機関別認証評価への対応を進める。 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による技術者教育プログラムの継続認定を受けるための、教育に係る自己点検評価の対応を進める。	② ・令和4年度運営諮問会議は、11月14日(月)に熊本キャンパスにて実施し無事終了した。なお、令和3年度と同様に、新型コロナウイルス感染防止策として、会議出席者について、会場にて参加する者を限定し、リモート参加者にはTeamsにてライブ配信することにより実施した。 ・令和5年度受審予定の機関別認証評価に向けて、令和4年6月までの期間でアンケート調査を実施した。本科卒業生及び専攻科修了生を対象に実施したアンケート結果の分析を終え、学校に対する提言案をまとめ、令和4年度内に自己点検評価委員会で承認を得る予定である。 ・令和5年度の受審に向けて、機関別認証評価準備ワーキンググループを中心に、評価項目に則った現時点での自己点検評価(チェックリストへのチェック)を行っているところであり、その結果に基づいて審査年度に対応する予定である。 ・各キャンパスにワーキンググループを設置し、JABEE技術者教育プログラムの継続認定に向け、評価項目に則り、教育に係る自己点検評価と実績に係るエビデンス資料を整理して令和5年2月1日JABEE事務局へ提出した。今後、令和5年度中に実施されるWebによる実地審査に向けた準備を進める予定である。 ・教育・学修に関する目標達成を目的とする学校情報(入試データ、教務データ等)を用いた分析を行う組織として「教学IR推進室」を令和4年10月に設置した。また、同月に学内規則を整備し、全教職員へ周知した。	◎
22	③ ・令和3年度に引き続き、地域企業、行政機関、外部エンジニア等と連携したPBLを推進・強化し、カリキュラムの実質化を進める。 ・今年度スタートする「リベラルアーツ実践Ⅲ」(4年生必修)では、全てのグループが外部機関との連携によるPBLに取り組めるように、各所との連携をはかる。※「リベラルアーツ実践Ⅱ」(3年生必修)までは、一部のグループが外部との連携によるPBLを経験。 ・地域の自治体等と連携し、小中学生等を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育の支援を検討する。	③ ・三菱みらい育成財団の助成を受けながら、令和2、3年度に引き続き地域企業、行政、外部エンジニア等の協力の下、PBLを立案し、実施した。両キャンパスともリベラルアーツ実践I、IIなどの授業を通してPBLを実践した。 ・令和4年度から実施の「リベラルアーツ実践III」(4年生必修)において、全てのグループが外部と連携できるよう働きかけ、ほとんどのグループが実際に連携を取りPBLに取り組んだ。 ・通常の理科連携授業は例年通り実施した(中学校8校、計20クラス)。情報プログラミング教育を含むSTEAM教育は、今年度に高度化推進経費に採択され、Meshを用いてプログラミングを含めた形での連携授業を計画し、11月より学生とともに教材開発をおこない、1月(1/7)に小中学生18名)および2月(2/21)に小学校2校、計5クラス)に実施した。	◎
23	③-2 ・新型コロナウイルス感染の影響を考慮しながら、キャリア教育推進室及び地域協働プロジェクトセンターと連携し、メガ・ミーティング、低学年向けキャリア教育等を検討、実施する。 ・インターンシップを含めた社会実装教育に関する実践例を点検、整理し、学内外での共有に向けた検討を行う。	③-2 ・地域協働プロジェクトセンター、キャリア教育推進室と連携して、地域企業との協力により「探検プログラム」を実施した。3件(6/8八代市、6/10企業、7/～)、学生3名。 ・熊本県工業連合会と連携して実施している、社会実装プログラム「新・閃きイノベーション」を実施した。 ・地域協働プロジェクトセンター主催のメガ・ミーティングは、内容を再検討することとし、今年度は実施せず、来年度改めて実施する予定とした。 ・低学年のキャリア教育として、キャリアセミナーやキャリア講演会を実施した。 ・インターンシップについては、例年通り報告書をまとめた。また、社会実装に関する実践例の点検、整理を進めた。	◎

番号	熊本高専令和4年度計画	令和4年度計画実績 ※年度末の状況	達成度
24	③-3 外部機関との協定およびK-SECとの連携により、サイバーセキュリティを含む情報教育について積極的に学生・教職員への情報提供や研修等への参加を促す。 高専機構一括調達による情報システム更新に対応し、校内システムの利用環境の改善を目指す。	③-3 ・県警主催の「高校生サイバーセキュリティ・プレゼンコンペティション」(10/8)に4名(両C)の学生が参加した。 ・九州管区警察局のセキュリティ出前授業を41名(八代Cの1名含む)に対して10/31に実施した。 ・K-SEC「KOSENセキュリティコンテスト2022」(11/19)について、熊本Cを会場として実施した。 ・K-SECセキュリティウインタースクール2022(12/26-27)に熊本Cの学生が1名参加した。 ・熊本C学生会主催RaspberryPI講習会(12/22)を学生19名参加で実施した。 ・K-SECトップガン講習会(3/2)に熊本C学生3名が参加した。 ・K-SECセキュリティスプリングスクール2022(3/9-10)に学生が3名参加した。 ・教職員向けにはK-SECセキュリティ関連情報や機構からのセキュリティ関連通知等を適宜周知している。また実践的サイバー防御演習CYDERの受講を促した。 ・一括調達による情報システムについて両キャンパスとも機器更新を行い、運用を開始した。八代Cの校舎改修のための未設置場所や認証系の設定について別途対応予定となった。	◎
25	④ ・eラーニング高等教育連携(eHELP)の教材やコンテンツなどを参考とし、災害や感染予防対応時に対応した自学自習が可能なコンテンツライブラリを開始する。 また、BYODの推進と併せ、Web Class等のLMSを活用した教育方法の推進、e-Portfolioの試験的導入による教育方法の検討及び効果検証を行う。 ・高専間ならびに技術科学大学からの提供科目の活用を促進するとともに、学生が積極的に提供科目を受講できるよう情報の提供および制度の整備を行う。	④ ・eラーニング高等教育連携(eHELP)の教材やコンテンツなどを参考とし、災害や感染予防対応時に対応した自学自習が可能なコンテンツライブラリの整備を進めた。 ・BYODの推進と併せ、Web Class等のLMSを活用した教育方法の推進、e-Portfolioの試験的導入を進めた。 ・学生に積極的に情報提供しており、高専間については前期2名、後期4名が、技術科学大学についても、2名が受講した。また、高専間提供科目については、「高専間単位互換科目の決定手順について」を作成した。	◎
26	(5) 学生支援・生活支援等 ① ・学生のメンタルヘルスに関わる学生支援のための講演会、学生へのアンケート調査を行い、学生支援連絡協議会、学生支援室キャンパス部会、担任会、グループ会議における情報交換や、教職員対象の研修会を継続して行う。 ・特別に学習支援が必要な学生のための特別支援プログラムの継続と、当該学生の修学支援や就労支援の方策検討等を学生支援連絡協議会および外部専門家と協力して行っていく。 ・青年期である学生の心のケアを継続して行うとともに、継続して自殺防止に向けての取り組み強化を図る。	(5) 学生支援・生活支援等 ① ・5月に本科1年生対象で学校適応感尺度調査を行った後、危険度の高い結果の学生と面談し、11月に1年生以外を対象に学校適応感尺度調査を実施した。10月に本科1-3年生対象に教育相談のための総合調査と検査を行った。また、11月にカウンセラーと担任の懇談会を実施した。(熊本C) ・7月に1年生を対象にΣ検査を実施した。また9月に、全学生(本科、専攻科)を対象に八代C独自の学生生活実態調査を行った。後期に入り、担任による全学生との面談を行った。(八代C) ・学生支援キャンパス部会をほぼ1ヶ月に1回のペースで実施し、学生支援連絡協議会、SSWとの情報共有を行った。(両C) ・特別支援プログラム(数学の個人指導)を対象者4名に対して実施した。(熊本C) ・特別学習支援プログラム申請者7名に対して実施した。(八代C) ・上記プログラムはSSWの協力を受けながら学生支援連絡協議会が主として活動を行っている。(両C) ・12月に1年生対象で自殺予防のためのメンタルヘルス講演会を実施した。またメンタルヘルス向上の一環として、10月に学生によるバイオリン演奏会を実施した。(熊本C) ・5月に1年生を対象にSCIによる特別講演会(充実した学生生活を送るために)を行った。クラス担任に全学生との面談実施を依頼し、気になる学生については学生支援室よりSSWとの面談を勧めた。(八代C)	◎
27	② Teamsやメール、掲示等により各種奨学金や支援制度を学生に周知し、積極的な応募や利用を呼びかけることで、経済的に困窮している学生の支援を行う。	② 学生課・学務課より、全学生向けteamsで各種奨学金や支援制度(4月29日に日本学生支援機構奨学金、9月7日に各種経済支援制度、9月21日に奨学金情報検索サービスCanpass、10月3日に日本教育公務員弘済会給付奨学金等)の周知をおこない、経済的に困窮している学生が応募し、採択されている。	◎

番号	熊本高専令和4年度計画	令和4年度計画実績 ※年度末の状況	達成度
28	③ ・(熊本)本科1～4年生及び専攻科生を対象としたキャリアセミナー、各学年ごとのキャリア講演会、就職実績のある企業を招いての業界セミナーを実施する。就職・進学・インターンシップ情報については、学内オンラインサービスに加え、外部のサービスとも連携をして情報提供を実施する。卒業生に対してキャリアイベントに関するアンケートを実施し、その有用性についての情報収集を行う。 ・(八代)2～4年対象にキャリア開発支援のプログラムを実施予定。4年対象の「進路セミナー」で進学・就職に関するキャリア開発支援を実施予定。本科3・4年、専攻科1年及び他学年の希望者を対象に「キャリア研修会」を開催予定。 ・本校コーディネータを始め関係教員と連携し、迅速な情報提供と企業案内の体制を整えており、OB・OGからの相談に対応する。	③ ・(八代)「キャリア研修会」を12月3日に開催、出展企業は計140社。同イベントを2～4年のキャリア開発支援として明確に位置付け、教務委員会と連携し、事前学習および事後学習を実施。4年対象の「進路セミナー」の実施とともに低学年からのキャリア開発支援の体系化・充実化を図った。 ・(熊本)全学年を対象とした「キャリアセミナー」を12月19日に実施。参加企業は全140社。加えて、半導体人材育成事業に絡めて、7月21日に本科4年生向け半導体技術に関する講演会を実施、11月11日に本科2、3年生向けの半導体技術講演会、また2023年2月6日にJEITA半導体部門講演会の実施。12月7日および9日には大学進学関連の進学説明会を実施。更に、12月2日、2月8日(2023年)にキャリアコンサルタントを招いて自己分析・自己推薦書の書き方等に関するセミナーを実施。就職・進学・インターンシップ情報については学内独自での情報提供と併せ、外部企業の発信する情報についても学生に案内を行っている。 ・(両キャンパス)就職・進学に関する情報提供のため「高専キャリアサポートシステム」を活用し、学校ホームページにリンクを掲載した。 ・OB・OGからの転職・Uターン相談は八代Cで2件(うち1件は転職済)、熊本Cは2件となっている。	◎
29	1. 2 社会連携に関する事項 ① 熊本高専のHPや「国立高専研究情報ポータル」等の更新頻度の向上と新規投稿を活発化することにより、教員、学生の社会実装の研究実践報告や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信する。	1. 2 社会連携に関する事項 ① 本年度は、専攻科特例認定の更新申請年度であり、各教員の研究業績のまとめを総務課より教員に対して行っており、あわせて科研費の申請および教員評価(職務申告表)の作成時に、「ResearchMap」更新を依頼した。また、未来技術者人材育成事業GEAR5.0 /COMPASS5.0 において高専ATにおける教員、学生の社会実装の研究実践の成果がPRTIMSや地方新聞で取り上げられるなど情報発信も活性化した。また、本校HPでも教員、学生の学協会などの表彰について公表している。 合志市と社会福祉協議会との包括連携協定(R4.6)、熊本県、熊本県教育委員会との包括連携協定(R5.2)を締結し、高専と地域連携の基盤が整備できた。	◎
30	② 地域協働プロジェクトセンター、KRAと連携を深め、学内研究プロジェクト、研究ネットワークなどを活用し、産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究の受け入れなどを促進させる。	② 地域連携による共同研究については、R3に7,007,500円がR4では、9,514,999円、受託研究では、R3が、10,464,478円がR4では、23,839,111円になるなど、産学連携コーディネータの活動により、各キャンパスの教員の社会連携活動が活発になった。	◎
31	③-1 地元新聞社の支局等との連携をこれまで以上に強め、学校イベント情報などを積極的に提供して取材協力を推進する。 また、新聞・テレビ・ラジオ等に掲載、放送された記事や映像を著作権者の了承のもと、必要であれば費用を支払って公式Web等へ転載していく。	③-1 地元新聞社の支局等との連携をさらに強め、学校イベント情報などを積極的に提供して取材協力を推進している。 また、新聞・テレビ・ラジオ等に掲載、放送された記事や映像を著作権者の了承のもと、必要であれば費用を支払って公式Web等へ転載する取り組みを継続する。 現時点で、新聞掲載が165件、テレビ取材も25件あった。	◎
32	③-2 公式Webサイト及び新聞やテレビ等のメディアを活用して、地域への効果的な広報活動を展開するとともに、新聞やテレビ等に掲載、放映された内容を機構本部へ遅滞なく報告する。	③-2 公式Webサイト及び新聞やテレビ等のメディアを活用して、地域への効果的な広報活動を展開するとともに、新聞やテレビ等に掲載、放映された内容を機構本部へ遅滞なく報告している。	◎
33	1. 3 国際交流等に関する事項 ①-1 タイ高専、タイプレミアムコースに加え、マレーシアADTEC技術者教育機関との協定締結を進め、相手国と連携・協議しつつ今後の交流についての検討を継続していく。	1. 3 国際交流等に関する事項 ①-1 10月にタイ高専(KOSEN-KMITL及びKOSEN KMUTT)の教職員16名を両キャンパスに迎え、3週間のトレーニングを実施した。	◎
34	①-2 タイ高専およびタイテクニカルカレッジプレミアムコース支援の経験をもとに、会議等を通じて助言等支援する。	①-2 タイ高専教職員トレーニングを実施した。タイプレミアムコースの評価試験の支援活動も引き続き行っている。	◎
35	①-3 ・タイ高専については、支援校として会議等を通じて助言を含め支援し、教職員本邦研修取りまとめ校として機構本部、学内全体で連携して実施する。 ・タイテクニカルカレッジにおけるプレミアムコースについては、昨年度までに引き続き、協力校として引き続き支援を継続する。	①-3 ・KOSEN-KMITL及びKOSEN KMUTTについては、支援校として第1回のOn the Job Trainingを、機構本部及び学内全体で連携して実施し、好評を得た。 ・プレミアムコースについても、昨年までに引き続きアセスメントの問題作成や確認を中心に支援を継続した。	◎

番号	熊本高専令和4年度計画	令和4年度計画実績 ※年度末の状況	達成度
36	①-4 タイ高専およびタイテクニカルカレッジプレミアムコース支援の経験をもとに、会議等を通じて助言等支援する。	①-4 タイテクニカルカレッジプレミアムコース支援及びKOSEN-Kmitl, KOSEN KMUTT支援校としての経験をもとに、必要に応じ適切に助言、支援できるよう体制を整備して備えた。	◎
37	①-5 タイ高専及びタイテクニカルカレッジプレミアムコース支援の経験をもとに、視察受け入れ、また会議等を通じて助言等、支援を行う。	①-5 タイテクニカルカレッジプレミアムコース支援及びKOSEN-Kmitl, KOSEN KMUTT支援校としての経験をもとに、必要に応じ適切に助言、支援できるよう体制を整備して備えた。	◎
38	② 支援しているKOSEN(型)教育機関における研修その他に参画する機会を、これまで同様継続的に持ち、教員、学生の国際交流の場として活用する。 タイ高専教職員本邦研修の計画実施、マレーシアADTEC技術者教育機関との協定締結を進める。	② 項目33及び35で触れているKOSEN-KMITL及びKOSEN KMUTT教職員の本校におけるトレーニングにあたっては多くの教職員の参加を得て、貴重な国際交流の場となった。 また、ADTEC MELAKA教職員の研修においても教員だけでなく学生も参画し、こちらも国際交流の場として活用することができた。	◎
39 (8)	③-1 ・海外渡航の状況を注視しつつ、状況が好転した場合はすぐにでも海外インターンシップができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、企業とアカデミックの両面からのインターンシップの準備を進めていく。 ・海外協定校と協議しながら、オンライン国際ワークショップおよび学生交流を計画実施する。	【再掲】No.8と同じ (記載不要)	◎
40 (9)	③-2 学生の国際コミュニケーション力や海外へ飛び出すマインド育成のため、海外協定校との協働ワークショップなどの運営に学生も参画させていく。また、海外渡航の状況を注視しつつ、状況が好転した場合は、すぐにでも海外研修ができるよう、海外協定校と連絡を取り合い、準備を進めていく。	【再掲】No.9と同じ (記載不要)	◎
41 (12)	③-3 本校の留学経験者の報告会及び留学説明会を開催し、留学の魅力を学生に伝える。その他、留学促進講演会として、熊大講師及び卒業生による講演会を両キャンパスで実施予定である。留学に関する奨学金情報は、随時学生に提供していく。	【再掲】No.12と同じ (記載不要)	◎
42	④-1 本校及び高専について情報発信の質両面での強化を図るために、HPの英語コンテンツのさらなる充実化を進める。在日本大使館を含め、協定校等への広報活動強化のため、学校紹介リーフレット(英語版)を更新し、配布する。 重点3カ国及び周辺諸国における広報活動については、リエゾンオフィスとも適宜連携して実施する。	④-1 HPについては情報更新を適宜行った。英語版リーフレットの更新は見合わせた。新設の国際棟利用情報について英語版の利用情報を作成して協定校へ共有した。	◎
43	④-2 低学年からの留学生受け入れについては、支援体制づくり、学習環境・生活環境の整備を継続し検討を進める。	④-2 次年度にタイ高専からの3年次編入学生1名を予定しており、人的、環境面の支援体制を整え、受け入れ準備を進めている。	◎

番号	熊本高専令和4年度計画	令和4年度計画実績 ※年度末の状況	達成度
44	⑤ 海外留学及び、海外渡航に対しては、海外安全状況を随時確認し、渡航にあたっては保険加入、たびレジ登録、定期的な安全確認を義務付けることで、渡航者の安全状況確認に努める。 外国人留学生については、学業面だけでなく日常生活面においても関係教職員と連携しながら支援していく。	⑤ 学校主導での学生の海外渡航として、日タイ高校生サイエンスフェアに学生を派遣することができた。また、個人的に渡航する学生には必要に応じた支援及び情報提供を行った。 外国人留学生については、学科、寮その他とも連携しながら支援を行った。	◎
45	2. 業務運営の効率化に関する事項 2. 1 一般管理費等の効率化 ・機構本部令和4年度計画及び機構本部予算編成方針を受け、年度当初に本校の予算編成方針を策定し、一般管理費、その他の業務の効率化を図る。 また、一般管理費の削減を図るため、学内委員会等と連携して光熱水費、通信費等の節減の取り組みを実施する。 ・通常業務における業務の見直しを図り、事務効率化を推進する。	2. 業務運営の効率化に関する事項 2. 1 一般管理費等の効率化 ・年度当初予算については、4月に本校の予算配分方針を策定、対前年増減率0%として、6月に配分を計画したが、その後のウクライナ情勢等の影響により電気料が上昇したため、各委員会等からの当初予算要求額に原則15%削減等を講じた内容で予算配分方針を一部見直し、7月に予算配分を行った。配分後は、電気料変動の動向に注視しつつ、適正な予算管理を行い、キャンパス毎に効率的な執行を図った。 ・光熱水費の削減対策として、電気使用量・料金の情報を各キャンパス内で共有し、省エネルギー対策依頼を夏季6月冬季11月に行い、節減意識向上の取り組みを継続した。 ・施設整備・設備整備事業に係る業務(八代C図書館及び専門科目棟2・熊本C5号棟改修)の増加に伴い、課内の更なる連携・調整を図り、業務の平準化が行えた。	◎
46	2. 2 給与水準の適正化 高専の方針に則り、適正に対応する。	2. 2 給与水準の適正化 高専機構の方針に則り、適正に対応した。	◎
47	2. 3 契約の適正化 契約にあたっては、他高専で実施された監事監査の指摘事項等を踏まえ、随意契約の適正化を推進するとともに、一般競争契約への見直しを継続する。 さらに、引き続き機構通知等に基づき学内(内部)監査等を実施する。 また、両キャンパスにおける調達等の合理化、効率化についても引き続き検討し、可能なものから着実に実施する。	2. 3 契約の適正化 随意契約の適正性の確保として、競争性のない随意契約については、全て機構本部への確認を経て行った。 なお、12月15日(熊本キャンパス)、12月16日(八代キャンパス)に学内監査を実施し、契約の適正性を確認した。	◎
		また、両キャンパスにおける調達の合理化については、柔軟な予算措置が可能な校長裁量経費等で、一括して調達ができるような調達案件はなかった。	—
48	3. 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 校長(副校長)のリーダーシップのもと、高専4.0イニシアティブ事業で掲げた「特色のある高専」の実現を目指した取り組みを継続させ充実化を図るため、本校の予算編成方針をあらかじめ定め、全教職員に周知する等、透明性・公平性を確保した予算編成に努める。 また、各委員会等からの「予算要求書」に基づき、アクティビティに応じた戦略的な予算配分を行い、各業務ごとに予算と実績を管理する。 なお、教員配分のうち「研究基盤費」については、「教員評価(職務申告表)」の「研究実績」に応じて配分する方法を継続する。	3. 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 本校の予算配分方針は、例年4月の企画運営会議において決定し、各委員会等からの「予算要求書」に基づき、戦略的な予算配分を6月に行い、各業務ごとに予算と実績を適正に管理しているが、今年度は、ウクライナ情勢等の影響による電気料高騰のため、当初予算要求額に原則15%削減等を講じた内容で一部見直した戦略的な予算配分を7月に行い、各業務ごとに予算と実績を適正に管理した。 なお、「研究基盤費」についても、「教員評価(職務申告表)」の「研究実績」に応じ、原則15%削減等を講じた内容で7月に配分を行った。 また、配分後は、電気料変動の動向に注視しつつ、各業務ごとに予算と実績を適正に管理し、インセンティブとなるよう、アクティビティに応じて、校長裁量経費を配分する措置を検討していたが、その後も電気料高騰が続いたため、校長、副校長、事務部との検討の結果、配分をとりやめた。	◎
49	3. 2 外部資金、寄付金その他自己収入の増加 社会連携活動の推進として、本校が中核拠点校である高専発「Society5.0型未来技術人財」育成事業GEAR5.0介護・医工分野の活動や近隣市町村との連携協定等を行うことで他機関と連携する機会を増やし、外部資金獲得の増加を図る。また、卒業生が就職した企業、同窓会等へ熊本高専地域連携振興会の案内を行うことで、会員の獲得増及び寄付金の獲得を図る。 さらに、ホームページの見直しや寄付者の決済手段の多様化を検討し、寄付金の募集方法の改善を図る。	3. 2 外部資金、寄付金その他自己収入の増加 高専発「Society5.0型未来技術人財」育成事業GEAR5.0介護・医工分野の活動状況、近隣市町村との連携協定等による他機関と連携状況 6/29(水)に合志市及び合志市社会福祉協議会と活力ある地域の振興と市民の健康福祉の増進に関する包括連携協定を締結した。また、2/22(水)に熊本県(教育委員会)と包括連携協定(教育研究の振興に関する覚書)を締結した。 熊本高専地域連携振興会の会員の獲得増及び寄附金の獲得状況 法人会員 106法人(うち、R4年度新規入会:12法人) 寄附金の獲得状況 今年度: 27件 11,839,665円(年間合計額) 前年度: 29件 13,343,284円(年間合計額) 寄附金の募集方法の改善状況 ホームページの見直しを行った。寄附についての個別のページとし、手続きや税制上の優遇措置に関する内容を追加した。また、高専機構の寄附申込ページへのリンクも追加した。 寄附金額の増加に向け、決済手段の多様化含めた複数の方策を確認し、効果的な改善策を検討する。	◎

<達成度の評価>

◎: 達成 ○: ほぼ達成 △: やや未達成 ×: 未達成 —: 該当なし